
名残り

山野水雛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
名残り

【Nコード】
N3611N

【作者名】
山野水雛

【あらすじ】

身体がふわふわする。

この感覚は…

風を、切る。

こんなに気持ちいいなんて思わなかった。

両手じゃ掴めないくらいの空気を身体全体に受けながら、

あたしは飛んでる。

耳の近くで怒鳴る風の音は、全速力の新幹線の窓に耳を押し付けた時の音に似てる。

シャツの中をせわしく、青い空気が通り抜けて行って、まるで青に抱きしめられているみたい。

気怠そうに、でも熱心に羽を動かす渡り鳥達を追い越して、海に出る。

空気と、空と、水が、一色に混ざり合う場所。

地球で一番いとおしい場所。

なんて綺麗なんだろう。

暫く見惚れていると、急に進まなくなった。

体がぐるんつと反転し、後ろを振り向く。

さっきとは全然違う景色。

ネオンが眩しい。空は灰色だ。

見た事があるような気がするのに、全然知らない繁華街。

どこなんだろう。

突然、グンとスピードがあがった。

慌ててスピードを抑えようとするけど、コントロールの仕方を知らない事に気付いた。

喧騒の間を、馬鹿みたいに全力で飛ぶ。

信じられないほど低空飛行だ。

通り抜けるあたしに、抗議の声がいくつもあがる。

少し母さんの声が聞こえたような気がした。

何にも当たらないようにと祈りながら飛ぶ。

身体が一気に上昇する。

煙がのぼっているのか、さっき見た時よりも空が黒い。

体を駆け巡っていた心地良い浮力が無くなった。

焦る時間もなく、どんどん落ちていく。

あたしは落ちる中で、ゆっくりと空を仰いだ。

風の音だけが、はつきりと耳に残った。

やっぱり新幹線みたいだなんて思う。

はつと瞼を開いた。

焦茶の天井が目に入る。

扇風機がすぐ近くで首を振ってる。

汗で髪が首筋にへばりついて、気持ち悪い。

台所から、母さんとはあちゃんの声が聞こえる。

夕飯の準備をしてるみたい。

畳の部屋から見える庭の木に一匹、ひぐらしが止まって、おずおずと鳴き出した。

上半身だけ起こして、扇風機を「強」にして、ばったりと大の字になった。

瞼はしっかり開いたまま。

夕飯の号令がかかるまで、もう少しこのまんまでいよう。

部屋がオレンジから赤紫になっていく。

夜の始まりを、静かに告げた。

（後書き）

眠れなくて、勢いで書きました。

夏が終わるって思うと、名残り惜しいです。

誤字脱字の報告、感想、批評、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3611n/>

名残り

2010年10月9日12時16分発行